

長ノ木本坊本堂修復落慶法座

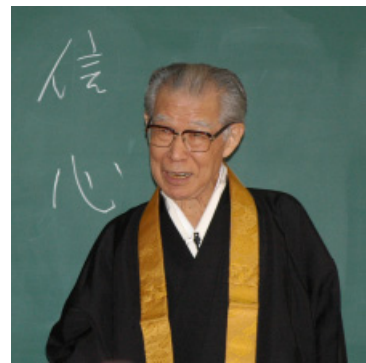
昨年十月二十八日、二十九日、長ノ木本坊本堂修復落慶記念法座が勤修されました。

名称は「落慶法要」といわずに「落慶法座」にしました。「法要」も「法座」も本来の意味はそう違いませんが、儀式（＝法要）を中心にせず、じっくりとお聴聞（仏さまのお話を聞くこと）を大切にしよう（＝法座）と



満堂の参詣者

信楽峻磨先生



いう意味です。ご講師は、信楽峻磨先生（龍谷大学名誉教授・仏教伝道協会理事長）。四席とも満堂の参詣者で、二十八・二十九日の両日とも、昼席は本堂から参詣者があふれ、広縁からお聴聞されていきました。

記念帰敬式

二十八日昼席後、記念行事として帰敬式（おかみそり）を行いました。堂内の照明は消され、ついているのはお内陣（ご本尊が安置してある所）のわずかなお灯明のみ。厳かな雰囲気、漂う薄暗い堂内を、御代行が受式者に肅々

と剃刀を当てて回り、百五名の門信徒が受式しました。受式者は当初の予定を大きく上回り、定員の倍以上になりました。倉員弘明さん（総代）が代表で法名を拝受、内田慶子さん（前仏婦会長）が帰敬文を拝読しました。

法名とは、仏弟子として仏道を歩む身となった者に授けられるものです。在家仏教である浄土真宗では法名といい、戒名とはいません。戒名は厳しい戒律を守る人がもらう名前です。また、死後つ



記念帰敬式の様子

けるのは略式で、本来生きている間にいただくものです。現在は死後に限り、各一般寺院の住職がご門主のお手代わりで法名をつけることになっています。ご本山では毎日二回行われていますので、ご分骨などで京都に行かれる際には、ぜひご本山（西本願寺）にお参りされて、併せて受式されることをお勧めいたします。

広島市でも年に一度広島別院で受式できますが、呉では行われていません。最近、一般寺院でも帰敬式を行うことが可能になり、さっそく実施したという訳です。呉ではご門主のご巡教（一九九七年）以来のことでした。

仏になるべき身になる

先日、帰敬式に参加された方のお家にお参りました。そのお家の方が、「帰敬式でお参りした際に、ご法座で、真宗を学ぶ者は仏になるべき身になる」とお聞かせいただきました、とお話下さいまし